

8月 ひよこぐみだより



岐阜市大門町1番地 聖徳保育園

思わず日陰を探したくなるような暑い日が続いています。そんな太陽の日差しにも負けずに笑顔振りまく子ども達です。沐浴・水あそびがとっても気持ちよい季節です。はじめての夏を迎える子ども達にとっては、体温調節だけでも大きな体験です。食欲が落ちたり、睡眠が十分に取れなくなって体調を崩しがちになるので、休息と十分な水分補給を心がけたいですね。そして、赤ちゃんの健康を守るために、一人一人の発達の度合いと特徴をふまえ、暑い夏を適切に過ごせるようにしていきたいです。



- ◎ 一人一人の体調に留意し、暑い夏をゆったりと機嫌よく過ごせるようにする
- ◎ 沐浴や水あそびなどの夏のあそびを通して、一人一人にあった運動を楽しませ、元気に過ごすことができるようにする



今月の予定



- 1日(金) 誕生児写真撮影
- 2日(土) 園内外消毒
- 5日(火) すくすく親子教室
- 9日(土) 園内外消毒
- 11日(月) 山の日
- 12日(火) } お盆・通園バス運休
- 15日(金) }

- 16日(土) 園内外消毒
- 19日(火) すくすく親子教室
- 22日(金) 誕生会
- 23日(土) 園内外消毒
- 26日(火) すくすく親子教室
- 27日(水) 避難訓練
- 30日(土) 園内外消毒

熱中症を予防しよう



35℃を超える猛暑日が続くこの季節。体温調節機能が未熟な子どもは、自分の体調不良に気づきにくいものです。こまめに水分を与える、風通しのよい服を着せる、帽子を被せるなど、大人が気を付けてあげるようにしましょう。室内の湿度・温度にも留意し、エアコンや除湿器などを使って適切な環境を保つことが大切です。

大切な人見知り



生後2～3ヶ月の赤ちゃんは、大人をじっと見つめたり、あやすと誰に対しても微笑みを見せます。しかし、4～5ヶ月頃からは、普段、見慣れない人に対しては、不機嫌な様子を見せるようになります。これは「いつも見慣れた人とそれ以外の人を区別するようになった」ということだけでなく、見慣れない人に対する恐怖心の芽生えとも言えます。人見知りは発達の一つの段階であり、さまざまな人に接しているうちに、相手を受け入れるようになります。

水分補給をしっかりとしよう

赤ちゃんや小さい子どもは、のどが渴いたことをうまく伝えられなかったり、水分が不足していても自分では気づかなかったりすることが多いので、そばにいる大人が水分補給を心がけることが大切です。

飲むタイミングは、寝る前や起床時、入浴前後、外あそびの前後などです。また、糖分を多く含むジュースは逆にのどが渴く原因になるので、麦茶やイオン飲料を水で薄めたものなどにしましょう。

皮膚のトラブルにご注意！！



夏は皮膚トラブルが多い季節です。あせも、虫刺され、日焼けは夏の定番です。そして蒸し暑いため、かゆみを伴う皮膚の病気はさらにかゆみを増します。

オムツかぶれの予防

- こまめにオムツを替えましょう
- オムツかぶれの悪化で、とびひになることも多いので、いつも清潔にしましょう
- 蒸しタオルでお尻を拭き、少しの間オムツを外したままで過ごしましょう

夏まつり

7月26日（土）の夏まつりにご参加いただきありがとうございました。

ヨーヨーつりでは、パシャパシャと水に触れたり、手で掴んだりしてたのしんでいました。手作りおもちゃであそんだりご家族と一緒に、笑顔いっぱいの姿がみれてよかったです。



野菜の日

8月31日は8（や）3（さ）1（い）の日です。

トマトやきゅうり、オクラといった夏野菜は水分やカリウムを多く含み体を冷やしてくれるので、夏の体調管理にぴったり！ご家庭でもそんな夏野菜を使った料理で、体の中から美味しくクールダウンしましょう。



心が通じ合う会話を ～0歳児は表情の天才～

※泣く

泣く声からその要求を読み取り、「おなかすいたね、ミルク欲しいね」「おしっこでたね、きれいにしようね」と声かけをしながら要求を満たしてあげると、満足感と信頼感を持つようになります。

※指さし

子どもの指さし行動はその思いを読み取り、「何がしたいの？」「虫さんよ」「ニャンニャンいるね」などと言葉にしてあげましょう。

※身ぶり・表情

身ぶりや表情は、言葉を発する前の子どもの言葉ですから、全身を使って自分の気持ちを伝えようとします。「おもちゃ欲しいの？」「抱っこして欲しいのね」と手渡したり、抱っこしたりして要求を満たしてあげることで、気持ちが通じ合います。

※一語の中に

喃語の中に含まれた気持ちを大人が言葉にしてあげることによって「自分の気持ちをわかってくれた」と安心して「心の通じ合う会話」ができます。「ブーブー乗りたいな」「ブーブー大きいな」など、一人一人違った思いが込められていると思います。

この子どもたち一人一人の気持ちを読み取り、受けとめて、言葉にして返してあげましょう。